

オリンピックが閉幕し、甲子園が始まりました。京都国際の粘り勝ちには、大きな感動をもらいました。大川先生が、心ない誹謗中傷を浴びせられている彼らに、今こそクリスチャンが励ましを送るべきだ！とわざわざお電話をくださいました。争いのあるところに、平和をもたらす人となることを教えられました。

### 神の国の到来

いちじくは、ぶどう、オリーブと並んで、バイブルランドの三大樹です。次々と芽吹く木々の中で、いちじくは、最も遅い芽吹きなのです。日本では、お茶の新芽と言ったところでしょうか。ペンテコステの季節を、想像してみたら良いかもしれません。緑萌えるという言葉があるように、一番のレジャーシーズンです。

イエス様は、「神の国の到来を、同じように悟りなさい」と勧められました。それは、緑萌える季節とは正反対の、諸国の民が不安に陥り、おびえ、恐ろしさのあまり気を失うような事態です。海がどよめき、太陽と月と星に徴が現れる時です。それを短絡的に、現代の津波や地震に当てはめることは、適当ではありませんが、イエス様の言葉を、再臨の約束だと信じる者にとって、その関わりは見過ごせません。一年で気持ち良い季節は、あっという間に過ぎ去って、耐えがたい灼熱の猛暑日が続くように、世界に現れる神様の徴は、苦しみの到来を預言しているのです。

これは、異端のように、私たちに不安と恐怖を煽らせる道具としてはなりません。むしろ、神の前に立つよう喜びが、魂を引き上げるために用いられるメッセージとして受け取りましょう。

### 暴風域圏内に入る

9月は防災月間です。夏の終わりの台風シーズンです。今週も、大型台風が日本列島を直撃するかもしれないと報道されています。警報が発令されても、その受け止め方は千差万別です。これは、聖書が語る真実だなと思わされます。必要以上に心配するけど何もしない人、全然真面目に聞かない人、他の地域の被害を詮索したり、行政や政治の批判で終わったりする人が多いからです。しかし、命を救うための警報を受け止め、落ち着いて普段通りの生活を守る人は、一番賢い人だと言えるでしょう。

聖書はユダヤ人だけに語られているわけではありません。全世界の人に向けて、終わりの時代に、神の前に立つという喜びが、希望になることを告げているのです。50億年後、地球が消滅することは、科学も告げている事実です。

何のために、私たちは生きているのでしょうか。命の喜びは、どこにあるのでしょうか。イエス様は、既にここに告げておられます。「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」と。日々、祈りの備えを持って時を過ごし、ますます、奉仕と交わりの生活を深めていきましょう。私たちが、救済のセンターとなることができますように。